

こうち、**再** **新** 発見！
TOSABUSHI

とさぶし



【第15号】
二〇一六年

TAKE FREE

目次

特集

高知の地芝居

とさぶし調査隊！ ブーシーズ 真夏の夜相撲

せがれ 青山幸司（株式会社アルテック）

勝手にJ-1グランプリ

移るんです 絵金

とさ印 とさたびのストレッチ足袋

TOSABUSHI
とさぶし 第15号
2016年

はみだし企画満載！web限定コンテンツ

web版“あだてん”
<http://tosabushi.com>

web
リニューアル！
見てちゃ！



facebookもやってます！

<http://www.facebook.com/tosabushi>

発行
高知県文化生活部文化推進課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号（本庁舎5階）
Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296
E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp
発行日：2016年6月24日（季刊）

企画 とさぶし編集委員会
制作 南の風社

バックナンバーの入手方法

お近くに配布先がない場合は、送料分の切手を送っていただくと、
受け取り次第発送をいたします！

【送料】

1冊・2冊 180円
3冊 215円
4冊・5冊 300円

6冊以上の場合は、一度ご連絡ください。

お問い合わせ・送付先は、高知県文化生活部文化推進課（上記）まで。



このパンフレットは宝くじの収益金の一部で作成しています。

土佐錦魚（とさきん）：土佐の国独自の金魚で、島根の出雲ナンキン、愛知の地金とともに日本3大金魚と言われている。大きなフリルのような尾と卵形の体型で、優雅に泳ぐ姿は牡丹の花にも例えられる。他の金魚に比べて人なつっこく、体をなでることもできる。



高知の地芝居

夜の帳が下りる頃、素人役者が舞台上上がる。
江戸時代から、地芝居は庶民の楽しみだった。
高知県には今も4つの地域に地芝居が残り、
夏や秋の祭りで上演されている。



歌舞伎と土佐

出雲阿国がかぶき踊りを披露したのは、安土桃山時代の京都と伝えられる。時代が江戸へと移り変わると、歌舞伎や浄瑠璃は、男の芸能として進化した。

高知県の東の端、室戸市佐喜浜には元禄時代に八幡宮歌舞伎を上演した記録がある。五穀豊穡を祈る神祭は、仕事の手を休め日頃の労をねぎらう場でもあった。皿鉢を囲んだおきやくの他、旅芸人や地元の人素人役者による歌舞伎芝居に熱狂し、禁制を敷いていた土佐藩も、年に一度は目をつぶった。県内各地に廻り舞台が建てられ、至る所で歌舞伎が上演された。

明治、大正へ時代が変わっても歌舞伎ブームは衰えなかった。昭和3年生まれの中村和子さんは、幼少時代に歌舞伎を習い始め、10歳になる頃には、全て女性が演じる乙女歌舞伎・中村八重子一座の一員として、満州出兵した兵士の慰問へ旅に出た。戦後は、歌舞伎の経験を生かして、地歌舞伎の台本を書き起こし、振り付けから着付け、かつらや化粧などを引き受け、津野町高野や香南市赤岡の地芝居復活の手助けをした。



中村八重子一座は、その実力が大阪の劇団に認められ、県内外を巡業に回った。プロマイドの右が中村和子さん。



この写真には「昭和19年3月14日、富岡局開催(兄弟座)二日目の大盛況」と書かれている。

◆芝居のいろは◆

廻り舞台

舞台の中央にあり、芝居の場面転換で使われる。床下に潜って数人で動かすものや、舞台袖のハンドルで動かすものなど様々ある。

セリ・スツポン

舞台や花道にある穴で、役者が登場したり退場したりできる。舞台や花道の下は「奈落」と呼ばれる。

太夫座

太夫が座る場所。舞台向かって右手にあり、舞台と観客席の両方が見渡せる。

義太夫節

浄瑠璃の1つ。江戸時代前期に大阪の竹本義太夫がはじめた。人形浄瑠璃の文楽など一般的には「語り」と「太棒(ふとさむ)」三味線の2人1組で演じるが、高知では1人2役で演じる。

下座音楽

細棒三味線や太鼓、鼓、笛などの和楽器を演奏して、芝居のバックミュージックを担う。芝居中は、舞台の袖で演奏している。

さんばそう

芝居の始めにおこなわれる音楽と踊りの演目。

西畑デコ芝居と 女義太夫

夏の神祭に年に一度の幕が開く。
そこには必ず女義太夫の姿がある。

「よっこいしょ、どっこいしょ。
みなさんこんばんは。今年も西畑
は岐様の夏祭りにおいでいただき
まして、誠にありがとうございます。
す。あら、拍手がない」。下がり
眉に赤い鼻の幕引きのデコがおど
けると、客席がどっと沸く。

旧暦の6月25日、春野町西畑の
岐神社の夏祭り。田んぼから神社
に延びる畦道を歩くと、カエルの大合唱が響き、むんとした風に稲の匂いが漂う。

神社の下には、芝居小屋。小学生による「はるの子宝三番叟」や、ラムネ早飲み、ビール早飲み競争などにぎやかな余興が終わると、あたりは夕闇に包まれている。
祭りの花形、西畑デコ芝居の幕が開いた。

女義太夫が語り継ぐ

土佐の地芝居は義太夫が欠かせない。竹本美園^{みその}さんは高知県ただ一人の義太夫演奏者として、県内各地を回る、高知の地芝居をつなぐ存在でもある。

高校を卒業して保育士養成学校にとい始めた頃、中学の先輩から人形劇団「ピコロ座」に誘われた。保育園に人形劇を見せに行った時のこと、「あたかも生きているかのように人形を動かすと、子どもが夢中になってのめりこんでくる」。自分を表現することが苦手な性格だったが、人形を遣^{つか}うことに何ともいえぬ楽しさを覚えた。ほどなくしてピコロ座は西畑デコ芝居の経験を持つ人から教えを受けることになる。数年後、ピコロ座のメンバーの中から「かがし座」が結成され、夏祭りなどでデコ芝居を披露するようになった。

子育てが一段落した美園^{みその}さんはかがし座で人形劇活動を再開。下座音楽の



竹本美園さんは高知の地芝居の太夫を務める他、和楽器の指導も担っている。

西畑デコ芝居とは

仁淀川の河口に位置する高知市春野町西畑地区は、明治初期、サトウキビを栽培する農村地帯だった。ぜいたく品の砂糖^{サトウ}の原料は高く売れ、一家に一挺 三味線があったと言われる。カイツリ^{カツリ}の夜、青年たちが地域の家々を訪ね歩く中、襖を横にして蹴込み^{キレ込み}（舞台）とし、よさこい節や伊勢音頭を演奏し、指人形を踊らせた。それは、本格的なデコに進化し、さらに地語りを義太夫節、歌舞伎芝居より題材をとり、数人で一座を組んで農閑期に人形芝居の興業を打った。それは高知県全域で上演され、爆発的な人気を博した。県内だけでなく県外にも西畑デコ芝居を上演する人形座がたくさん生まれた。一人が一体を操る差し金^{さしきん}使いの技法は日本のどこにもなく、のちに世界の人形劇のスタンダードな手法になった。

しかし、映画やテレビなど娯楽が庶民に浸透するにしたがって人形座の数は減り、発祥地の西畑の火も消えた。
※デコ……人形のこと。でくのぼうが由来という説もある。
※カイツリ……旧暦1月14日の晩、子どもや若い衆が連れだって家々を訪ね、お餅などをもらう行事。



三味線を担当することになり、野市町の竹本園太夫さんに弟子入りした。その年の秋、初めての町八代^{やしろ}の青年奉納歌舞伎にお供し演奏した。歌舞伎を演じる農家の青年たちには数え切れないおひねりが飛び、舞台は足の踏み場もなくなる。父の演技を観た子どもは「かっこいい！俺もあの役をしたい」と目を輝かせる。損得抜きで舞台を支える人たちの気持ちのよさに感動し、自分がその中にいることに心が満たされた。

しかし、太夫の後ろの囃子^{はやし}部屋で弾いた三味線は散々だった。その時、師匠は一言、「悔しかったら稽古したらいい」。保育士を辞め、週に2、3度、バスで野市まで通い、三味線の練習を続けた。やがて「太夫をやってみるかよ」と師匠に背中を押され、義太夫語りの稽古に打ち込んだ。

義太夫が弾き語る浄瑠璃^{じょうるり}は、語りと音だけで空気感を作り出し、パワーのある太棹^{ふたせお}三味線のひとバチで喜怒哀楽を表現する。「義太夫の型は江戸時代から変わらない。でも家元制ではなく、その人の個性や人間性が出てしまう。だから深くて難しい」。何度稽古を繰り返しても「できた」ということがない。落ち込んで飛び乗った最終バス。窓の外を眺めたら、まんまるの月が浮かんでいた。「ああ、あの月へ歩いて行くようなことを始めたがや……」。たどり着けないくらい遠いなら、一段一段のぼって行こう。腹がすわった。

西畑デコの進化



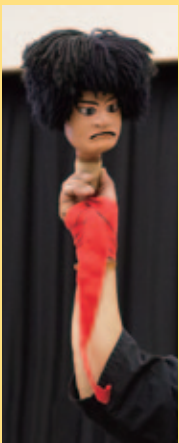
卵の殻：卵の殻に目口を描いて頭とし、人差し指に差し込み、ふくさが衣装。



おがくず人形：桐のおがくずを糊で固めて粘土をつくり、顔の土台を作る。乾燥するとひび割れるため、何か月もかけておがくず粘土を埋め込んでいく。膠を煮溶かした液と胡粉^{こふん}を練り、顔に塗って艶を出した。目は豆電球などのガラスを埋め込んでいる。より人間らしくするため、かつては人毛が使われた。



差し金遣い：人形を人間のように動かしたいと工夫を重ねた。舶来のこうもり傘の丸骨のハガネのしなりに目をつけ、人形の両手に差し金をつけて、片手で操作できるようにした。



指に真つ赤な「さいさん」：人形遣いは、人差し指に赤い布を巻きつけて頭をつける。この指で財産を稼いでくるという意味で、西畑ではこの赤い布を「さいさん」と呼ぶ。



『幡州皿屋敷 青山鉄山館の段』（2015年公演）

「〇〇年の時を超えて

片山美弥子みやこさんはいの町枝川に生まれ、23歳で春野町西畑の農家に嫁いだ。「デコ芝居の西畑にお嫁にいくがやね」。年配の人たちから必ずそう声をかけられた。「西畑デコって？」と夫の隆さんに聞くと、明治時代に生まれたものの、長い間地元から姿を消し、頭も衣装も一つも残っていないという。数年後、岡山で西畑デコを継承する人形劇団が農協の出荷場に公演に訪れ、観る機会に恵まれた。「なぜ、この素晴らしい伝統芸能を地元でしないの!？」。その言葉が胸に響いた。

その後も結婚前から続けていた子ども会や公民館活動に精を出した。日本全国の伝統芸能を継承している秋田県の劇団を呼び、春野中学校の体育館を1200人の人でいっぱいにした経験を買われ、「春野に文化施設ピアステージができる。町の文化振興役になってくれないか」と町の職員から言われた。どうしたものかと悩みつつ足元を見



片山美弥子さんは、人形遣いの後ろで小道具を渡したり芝居の補助をする「後見」の役割を担っている。

ると、西畑には青年団がなくなり、夏祭りも旗が立つだけ。かつて地域のみんなが楽しんだデコ芝居でつながりが戻らないだろうか。「私は西畑デコを復活させたい!」。美弥子さんは思わず叫んだ。さっそく農家仲間や近所の人に呼びかけたところ、同じ思いを持つ20人が集まり西畑人形芝居保存会が結成された。

「西畑デコ芝居を教えてほしい」。かがし座の代表に相談したところ、「発祥の地、西畑だからやりましょう」と快く引き受けてくれた。仕事を終えた後、週に2回人形操作の基本を学び、他の日は頭作りを習ったり、竹本美園先生宅に和楽器の演奏を習いに通った。人形に着せるカラクリの着物やわらじは「やっちゃろう」と地元の器用な人が作ってくれた。「頭も人形操作も和楽器演奏も、全て地域の人の手で作りあげる。デコ芝居は総合芸術だったがや」。改めて、西畑デコの素晴らしさに気がついた。

あっという間に数か月が経ち、8月初旬、岐神社の夏祭りで本番を迎えた。朝早くから地域の男性たちが稲を刈ったばかりの田んぼに芝居小屋を組み上げる。「本日、岐様で西畑人形芝居の復活公演をします!」と役場の広報車が町中に知らせて走る。あたりが暗闇に包まれ、ヒグラシの声が響く頃、カンカンカンと拍子木を打つ音が鳴り響き、「岩見重太郎大蛇退治」の幕が開いた。1996年、およそ100年ぶりに、

地元の人たちが西畑デコ芝居を復活した瞬間だった。

若さと元気を語りに注ぐ

西畑デコ芝居に奔走する美弥子さんの後を、小学生の末っ子・絵理加えりかさんが付いて回る。大蛇の尻尾を持ったり、人形のエプロンを縫ったり。「とにかく大人に混じるのが楽しくてたまらなかった」。三味線の音色は最高の子守歌となり、三味線と共に母に背負われ帰宅することも。芝居の台詞や義太夫の語りはいつの間にか体に染みつき、空で唄えるほどになっていた。

「声がかいき、太夫をやりや」。中学3年の選択授業で西畑デコ芝居を選んだ絵理加さんは、母から勧められ竹本美園先生に義太夫語りを習った。「流行の歌と同じで、簡単にコピーできる



絵理加さんは2008年「竹本絵理園」の名を受けた。以来、西畑デコ芝居の義太夫を務めている。

今につながる義太夫節

踊れる体育教師を目指していた片山芳奈子かなこさんは、日本女子体育大学に進学するも、やがて興味はお芝居に向き、卒業後は現代劇の俳優として活動した。ある映画で、わらじを編みながら夫の帰りを待つ農家の女性を演じることに

なった時、台詞がうまく言えずNGが連続。言葉を出すことへのコンプレックスをひしひしと感じた。撮影を終えて帰省し、西畑デコ芝居

の練習で竹本美園先生の語りを聞いた時、心が震えた。「語り一つで感動させられる。こんなにすごい世界があったとは」。

帰郷し、実家の農園で働きながら竹本美園先生のもと

に稽古に通った。義太夫節は芝居に登場する何役もの台詞や心情を語り分けて、その場の状況を語り、三味線で表現し、ナレーションの役割も果たす。役になりきりすぎると、役者の経験があだになることさえある。「もっと義太夫節の世界に浸っていかないと」痛感した。

29歳で結婚した。妊娠しても臨月まで稽古を続け、出産後は娘を連れて稽古に通った。農園の手伝いをしながらの初めての子育て。夏の芝居シーズンを目前にして、稽古をする時間はなかなかとれない。しかし、「娘と稽古、どちらも疎かにしたくない」。気持ちばかり焦った。

「傾城阿波の鳴門」を稽古した時、はっきり変化を感じた。生き別れた母子が再会する場面、娘に危害が加わるこ

芳奈子さんは2010年「竹本園芳」の名を受けた。竹本美園先生が義太夫を務める地芝居で下座音楽の演奏を務め、さらに義太夫の語りを継承できるよう修行を続けている。



を恐れて実母であることを打ち明けずに見送る。以前は「突き放すなんてかわいそう」と思っていたが、ぎゅっと胸が締めつけられた。今は、子どもの身を守る母の気持ちに身に染みてわかる。「私を感じたことは、義太夫語りに欠かせないのかもしれない」。現代の親子関係にも通じる義太夫節を語りたい。そんな思いが芽生えた。

西畑から人の輪が広がる

2003年から「伝統文化子ども教室」が公民館活動として始まった。教室では毎年6月から約2か月、西畑子ども会に参加する小学1年生から6年生までが西畑デコ芝居に必要な和楽器の基礎や立ち回りを習い、地域の人たちを前に発表する。もう250人以上が育っていた。

子ども会の保護者会は独自に寄付を集めたり夏祭りの出店の準備をしたりしてくれ、企業は地元文化を大切にしようといふ心を揃えてくれる。子どもたちは敬老会に呼ばれて発表したり、春野高校にデコ芝居のサークルができて文化祭で上演したり、西畑デコ芝居は地域の誇りになりつつある。「練習がんばっちゃうかね」「今年は三味線をやるが」



最近の伝統文化子ども教室では竹本美園さんが創作した「はるの子宝三番叟」の上演を目標にしている。低学年は踊り、中学年以上は楽太鼓やしめ太鼓、小鼓、当り鉦、三味線など和楽器を練習し披露する。

西畑デコ芝居を
観に行こう！

2016年7月28日(木)
19:30～

演目「岩見重太郎大蛇退治」

大蛇退治をした岩見重太郎と塙団右衛門が対決する。時代のヒーローが登場して戦い合う姿は見もの。入場無料。

と、地区の人が子どもに気軽に声をかける光景も見られるようになった。西畑デコ芝居が復活して20年、保存会会長の片山隆さんは「やっと昔のにぎわいが戻ってきた」と頬をゆるめる。

いま西畑には親の仕事を継いだり移住者が入ってきたり、30代、40代の就農者が増えてきている。野村ひかるさんは県外からUターンし、保存会に加わった。「自分は前に出るタイプではなかったけど、小学6年生の時にデコ芝居の主役をやったことで自信が持てた。地元でそういうきっかけを作ってくれるものがあるのはすごいこと」。23歳になった今年、タルトの専門店「野菜がタルト」を春野町に開店した。実家は県外のレストランに卸すほどの味自慢のトマトを作っている。「地元で採れた野菜のおいしさを味わってほしい」。今度は子どもたちに「すごい」と感じてもらう番がきた。

地元を誇りに思う気持ちは、西畑の人と人をゆるやかにつなげ、地域の隅々へと広がりを見せている。

◆高知の地芝居② いの町枝川八代・八代八幡宮

八代青年奉納歌舞伎

300年受け継がれる
芝居好きのDNA

五穀豊穡を祈り、神に捧げる奉納歌舞伎。八幡様の本殿に向かい合う舞台から、地区の青年が奉納する様子は300年前から変わっていないという。

水田悠介さんは昨年、女形で登場した。「着物を着て、化粧をして、女性を演じる新鮮さは日常生活では味わえない」。家族や親戚が座布団やカーペットを持って席をとり、上演がはじまると、歓声とおひねりの嵐。「その歓声と激励を味わうと、来年も！と気持ちが昂ぶる」。アドリブはローカル色が強すぎて地域外の観客の頭には「？」マークが浮かぶこともあるが、まるでこの地域に住んでいるかのような人間関係の濃さに浸ることができる。

八代八幡宮の神祭に奉納するため、地区の青年たちが代々受け継いでいる。芝居をおこなう神楽殿は約100年前に再建され、舞台は、皿回し式、二重台、太夫座、花道、スッポンなどを有している。(国指定重要有形民俗文化財に指定)。

毎年11月5日 夕方5時頃から上演



見所

毎年、歌舞伎を2つ上演。地区の青年や子どもが登場し、日頃の練習の成果を発揮する。その他、五穀豊穡を祈って踊る「式三番叟」、奉納歌舞伎よりも古い歴史を持つと言われる「大黒踊り」、地元の役者による唄や踊りなどプログラムが多い。お楽しみの抽選大会もある。

楽しみ方

奉納歌舞伎のため、入場無料。寒い時期なので、座布団や毛布を持ち込んで暖をとる人も。会場ではお酒や青年団が作るおでんが販売されていて、購入するとパンフレットがもらえる。小銭をティッシュペーパーに包んだおひねりを用意して、「いいぞ！」という瞬間に投げ込んでみて。



西畑人形芝居は2002年に高知市無形民俗文化財に指定された。西畑人形芝居保存会は若いメンバーも加わり、今年20周年をむかえた。

◆ 高知の地芝居 ③ 香南市赤岡町・弁天座

土佐絵金歌舞伎



赤岡の町中に絵金の芝居絵屏風が飾られる絵金祭りと同様開催。伝承会は、香南市赤岡を中心に36人、県外に異動になっても練習に通ってくる仲間もいる。弁天座は、プロの役者による公演や地元のカラオケ大会など、文化の拠点にもなっている。2016年10月30日(日)、弁天座で地芝居の合同公演も予定している。

毎年7月第3土曜、日曜の17:00～



絵金の芝居絵屏風が動き出す



大杯^{なは}飲み干し大会で知られる赤岡の「どろめ祭り」。町を元気にしたいと龍馬や歌舞伎役者の仮装でステージを盛り立てていた横矢^{よこや}のおぼは「絵金が描いた歌舞伎をやろう」と仲間を募り、1993年、絵金祭りで披露した。伝承会を立ち上げ、絵金が芝居絵屏風に残した芝居を1つ、それ以外の演目と併せて、毎年2つずつ演目を増やす。雨でも上演できるように農協の出荷場に会場を移し、汗だくになりながら上演を続けた。その場所は、かつて明治時代に数々の興業が打たれた芝居小屋「弁天座」跡。2007年にその名前を引き継いだ新しい芝居小屋が建った。

立派な芝居小屋でも気取らないのが地芝居のよさ。役者が台詞^{ざいご}につまると、客席からビールが手渡されたことも。

見所

毎年上演される「浄瑠璃式三番叟」は、伝承会のメンバー10人以上が下座音楽を演奏し豪華絢爛。歌舞伎の衣装の色合いは絵金の屏風絵に合わせていたり、高知の地歌舞伎を引き継ぐ中村和子さんの台本と振り付けで江戸とは違った「型」があったり、高知流を発見できるかも。

楽しみ方

弁天座の前では地元の人たちが作ったお弁当やおでん、向かいの絵金蔵では地酒の振る舞いもあり、飲んで食べて楽しめる。入場は無料で、出入り自由。500円で公式パンフレットも手に入る。カメラやビデオ撮影もOK。

◆ 高知の地芝居 ④ 津野町高野 三嶋神社隣の廻り舞台

高野農村歌舞伎



『絵本太功記十段目尼ヶ崎の段』(2007年公演)

廻り舞台は江戸時代中期に建ったものが1873年に再建された。昭和30年代に芝居が途切れるが、1977年に国の重要有形民俗文化財に指定され、復活。以来、4年に1度のペースで上演を重ねている。

4年に一度、10月の17時頃から
(次は2017年)

山奥の古式ゆかしい廻り舞台に、地元役者が勢揃い

四十十川の源流地を持つ津野町は、古い廻り舞台がいくつもあり、旧家に浄瑠璃本が残されている。その中でも高野地区は日本で唯一、舞台裏でハンドル操作により操る「鍋蓋^{なべがさ}上廻し式舞台」があり、古くから芝居が盛んな土地だった。30年前から芝居を続ける高橋延隆さんによると、「昭和の初めは年に2回も3回も上演していたようなので、かなりの芝居好きだったはず」。舞台の設営から役者まで、芝居を運営するのは高野地区の30名ほど。最年長役者は65歳、女性も舞台上上がり、2か月前から組に分かれて毎晩練習を重ねる。「目の肥えた先輩がおるき、生半可な芝居じゃあ許されん」。芝居の後に、お酒を飲みながら、演技を肴に談義が続く、晴れの舞台に向けての気合いが入る。

見所

茅葺き屋根の廻り舞台はぐるりと山に囲まれ、時に雪がちらつく。風情のある光景の中で地歌舞伎が上演される。

楽しみ方

上演の当日は昼頃から席取りが可能。座布団などでいい場所を取ったら、四国カルストや天狗高原などドライブに出かけても。上演近くなると、ふるまい酒やしし汁やおでんの販売もあり、食べながら飲みながら観劇するのも楽しい。入場無料。



最高の音を 追い求めて

株式会社アルテック 代表取締役
青山 幸司さん

一世を風靡した高知のジャズ喫茶から、
舞台やテレビを支える音響の世界へ。
人々を魅了する音作りの仕事は続く。

誰でも土俵入りできる!

8月14日の19時までに上関の阿弥陀堂まで
お越しください。貸し出し用の「まわし」も用
意しています。(本山町上関)

勝者に渡される賞金がぶら下がっている。

真夏の 夜相撲

本山町

よ、夜の
相撲って...

とさぶし調査隊!

ブーシース

投稿 其の七

かつて相撲が盛んだった
嶺北地域では、
今も男たちが裸の戦いを
繰り広げている。

お盆の夜、地元の猛者が自前のまわし
をぎゅつと締めあげ、阿弥陀堂に集結す
る。「強い者の取り組みはもちろん激し
く見応えがあるが、初心者同士の取り組
みは何が起こるか分からないおもしろさ
がある」と実行委員の泉祐司さん。勝者
にはお札を連ねた賞金が与えられ、その
夜もつとも強い力士の肩には、何本もの
お札のたすきが掛けられる。

土俵浄め
地元二名の力士が土俵に
あがり、酒と塩で土俵を
浄める。酒はもちろん地
酒・桂月。その後、前相
撲をして一番勝負。

飛びつき5人抜き
甲乙丙の組ごとに、優
勝者一人に対して全員
が土俵を囲み、勝者に
向かって次々に挑戦す
る。勝者は息つく暇なく
必死に戦う。

お好み三番
実力が拮抗すると思われる
力士を実行員会が指名し、
三番勝負をおこなう。

甲、乙、丙の3組で5人抜き
お好み三番の結果を基に、力
士の技量で甲乙丙の3組に分
け、リーグ戦をおこなう。甲
が最も強く賞金も高い。

上関阿弥陀堂奉納相撲とは?
江戸末期(1860年頃)、上関地区は疫病の流
行と凶作に見舞われ、病氣回復と豊作祈願の
ため草相撲の横綱力士に土俵入りをしてもらっ
たことが起源。

illustration Junko Nakahira

2002年、Fujitsu コンコード・ジャズ・フェスティバルで福井県を訪れた時、ギター奏者のポリーニョ・ガルシアと。中央が幸司さん、その左は父・清水さん。1988年から2010年までこのツアーに同行し、トラックに機材や荷物を積んで約20日間をかけて日本中を回った。



喫茶の傍ら、父の仕事も手伝った。朝8時に現場に着いて機材を運ぼうとした矢先、「まだ音は出んのか」と主催者。マイクやスピーカー、ミキサーや

自分流を探して

スは専門店に負けない味となり、評判になった。

アンプなどの機材を設置し、マイクのリニューアル、ハウリングチェックなど準備の時間が考慮されていない。他にも、約束の時間に行っても会場の鍵が開いてない、そもそも約束の時間が違う、持ち込んだものと全く別の機材が必要だった……そういうトラブルは日常茶飯事だった。「話、ついちゃうが?」。打ち合わせしたはずの父に詰め寄ることもあっ

凝り性が顔を出す

チーン、とピンタが飛んだ。「ひねくれているのに曲がったことは大嫌いな性格で」。結局、部活は辞めた。仲間とバンドを組んでピストルズ、ラモーンズ、ブルーハーツを演奏したり、バイクいじりをしたり、趣味の世界に羽ばたいていった。

高校卒業後、県内の大手製作所に就職した。つなぎを着て機械の組み立てや修理をする毎日。上下関係は厳しく、東京工場、札幌営業所など転勤も続いた。50歳、60歳代になった自分を想像した。「一生、工場の中で働くがか……」。コンサートツアーの仕事で上京し

た父に愚痴をこぼしたら、あっさり言われた。「ほんなら辞めて帰ってきいや。けっこう忙しいき」。5年目の冬、会社を辞めた。週末はライブの仕事、夏はよさこいの仕事に忙しいが、それ以上に母が切り盛りする喫茶のランチタイムも多忙を極めていた。料理経験ゼロの幸司さんは戦力になれるよう、叔父が経営するレストランで働き調理を学び、2年後、アルテックの厨房を任された。短い昼休憩に訪れるお客さんのために、仕出しの弁当をとってやりくりしていたが、「もったいない。これなら俺にもできる」と手作りに切り替えた。玉子焼きやオムライ



入学式、結婚式、少年野球の開会式、カラオケ大会、よさこいの地方車にテレビの生中継。青山幸司さん(40)は、マイクやスピーカーが必要ならあらゆる場面で音を演出するサウンドマン。室内、野外、ホールなど会場の音の反響を確認し、必要な機材を配置し、いい音が響くよう最善を尽くす。「目指すのは、明瞭でメリハリのある音。音では誰にも負けたくない」。

家業はジャズ喫茶

幸司さんの両親は天津パイパスが開通したばかりの1973年、若者向け商業ビル「ヤングプラザ」の2階に喫茶アルテックを開店した。当時、空前の人気を誇ったアメリカのホームオーディオALTECのスピーカーを置き、店主の青山清水さんが「見



よう見まね」で真空管アンプを組み立ててジャズを流したところ大ヒット。その音に魅了された人たちが通い詰めた。

最大100人が入るジャズ喫茶は県内では他にはなく、渡辺貞夫がライブの打ち上げに訪れ演奏したことをきっかけに、夜はライブハウスとなった。海外のジャズアーティストの全国ツアーにも呼ばれるようになり、舞台監督として裏方を仕切りつつアーティストの迎えから宿の予約、楽器や荷物の運搬までなんでもした。その献身的なもてなしが喜ば



レイ・ブライアントをはじめ、名だたるアーティストがアルテックでライブをした。アルテックライブを収録したCDも多々ある。

れ、アート・ペッパーやビル・エバンスといった世界的ジャズメンが高知を訪れ、ライブをした。

ひねくれた青春時代

幸司さんは二人兄弟の次男。両親は厳しく、勉強ができた兄と比べられよく怒られたことを覚えている。「機械いじりが好きで、ラジコンやエアガンを組み立てて遊ぶのが好き」。中学生になると、父が現場を務めるジャズライブの仕事に付いていくようになった。「年に数回だったけど、遠いところに行けるのは楽しみ。でも、ジャズに興味なんて沸きませんでした」。



野球好きの父親に影響され、小学校3年で少年野球を始めた。中学3年まで7年続けたが、「坊主頭が嫌」で高校ではソフトボールに転身。初心者が多く、ぎりぎりで試合ができる人数。それなら楽しくやりたいと考えたが、顧問は厳しい練習を課すばかり。2年になったある日、疑問が積み重なり顧問に思いをぶつけた。「そんな教え方したって、勝てるはずない」。バッ

勝手に

地元のイチ推し!

GRAND PRIX

グランプリ

夏祭りや花火大会の夜店に登場する、
その地域ならではの食べ物。
ひと味もふた味も違う地元のおすすめは、
行かねば食えない!!

土佐町
TOSA TOWN



土佐
あかうしの
串焼き

「今日は〇〇さんの土佐あかうしを焼いています」。
明日は名前が変わるの?! 30軒ほど生産者がい
る嶺北地域では生産者の名前入りで希少な肉を
仕入れることができ、さらに地元産の樫炭でじん
わり焼き上げる。

¥ 中串500円
大串700円
8月7日(日)
お山の手づくり市に出店

● 販売者: さめうら観光協会



希少な牛肉に名前入り



中学生が命名した
ばくだん

かつて清水中学校の隣にあった前
田商店などが販売していた伝説の
おやつ。一見アメリカンドッグだが、
一口かじると、中から焼き鳥が現
れる! 「ごつまあ、味がしみちよう
〜」と中学生の間で一大ブームに。
店は閉まったが、30〜50代の清
水中OBが懐かしみ、復活させた。

¥ 1本150円
8月5日(金)市民祭 あしずりまつり
清水のおきやくに出店予定

● 販売者: 若者グループいそあらし



※ごつまあ(ごまに)とても、すごく



パワーアンプにデジタルミキサー。
10年ほどかけて機材は最新のものに刷新した。

転機はテレビ中継

「ピッチャー振りかぶって投げま
まず、HPを立ち上げ、機材レン
タルやオペレーターの料金表を掲載し
た。小規模な現場は2万円から、中
規模、大規模、よさこい祭りまで、
機材と料金を見せ、現場の様子をブ
ログに綴る。それを見た人から依頼
が舞い込み始めた。

た。大手に比べると、機材もスタッ
フも少なく、料金を叩かれること
もしばしば。「いい仕事をしたと
しても、こんなことで評価を落と
したくない」。どんな小さい仕事
も自分が窓口となり、打ち合わせ
をするようにした。



母・幸枝さんと清水さん。店とライブ、二人三脚で43年
アルテックを守ってきた。

機材が揃っていても、正確に操作
ができて、人の心に響くわけでは
ない。フェーダーを操り、ボリユー
ムを調整したりエフェクトをかけた
りして音を演出する。生中継の番組
では、いくつものマイクが拾った
複数の音をヘッドフォンで聴きなが
ら、ミキサーで調整しないといけな
い。事前の打ち合わせはとにかく入
念におこない、下見に足を運んだ。
場数を踏むうちに、「いい音だった」
「気持ちよく歌えた」と喜んでくれる
人が増え、「次もよろしく」と予約が
入るようになった。

した。バッテリー、打った!。「:カ
キ」。「あれ? なにこの音」。初め
て呼ばれたケーブルテレビの野球中
継。甲子園のように「カッキー
ン!」と良い音が響くはずだった。
解説者の声はよく聴こえるが、現場
の臨場感がなく、淋しさが漂ってい
る。録画した番組を再生しながら、
愕然とした。

2016年、ジャズ喫茶アルテッ
クの閉店を決めた。ファンからは惜
しむ声が届くが、70歳を目の前にし
た両親がいつまでも続けられるとは思
えない。「料理も好きだったけど、
音響のほうわくわくする。これか
らは一層、音の仕事に専念できる」。
店はなくなっても、人々を魅了する
音は響き続ける。



アルテックは2016年10月末で閉店する。フィナーレを飾るジャズライブも企画している。(高知市北本町4-4-23)

大人の味を満喫

奈半利町
NAHARI TOWN

キンメダイの近海一本釣りが盛んな奈半利町加領郷地区。高級魚・キンメダイをご飯に炊き込み、さらに炙った切り身をトッピング。キンメの赤に錦糸卵や青葉(大葉)で彩り鮮やか。夏に獲れるイチジクをトッピングしたソフトクリームは、子どもにはわからない大人の味を楽しめる。

¥ 金目ご飯の炙り丼500円
10月8日(土)・9日(日)
高知東海岸グルメまつりに出店予定
イチジクソフト(300円)は、秋頃から
奈半利駅の物産館で販売

● 販売者：加領郷魚舎、物産館無花果

海鮮コロッケと 魚ロッケ

小さい漁港が海岸線に点在する大月町。海を望むだんだん畑ではじゃがいもの栽培も盛ん。漁師の妻たちは、平アジのすり身をコロッケ風に揚げた魚ロッケ、つぶしたじゃがいもの中にごろつとしたイカを入れた海鮮コロッケを開発。

¥ 海鮮コロッケ、魚ロッケ各100円 8月20日(土) 大月まつりに出店

● 販売者：すくも湾漁協柏島女性部加工クラブ

販売場所など詳細はとさぶしwebをチェック! 料金は2016年6月現在のものです。

キンメダイと イチジク

いの町
INO TOWN

キジづくし

西日本最高峰の石鎚山を望む山深い旧本川村で育てられたキジ肉は、鶏肉と比較し、低カロリーで高タンパク質。バーベキューやきじ飯、きじ汁のラーメンも人気。小ぶりの本川じゃがいもの煮っ転がしや、コシアブラやウドなど山菜料理も味わえる。

¥ 氷室の手箱ラーメン400円 7月17日(日) 氷室祭りに出店

● 販売者：本川手箱きじ生産企業組合

魚介とじゃがいもの
絶妙な出あい

大月町
OTSUKI TOWN



魚ロッケ

海鮮コロッケ

お山のい
馳走

窪川牛回転焼き

四万十町
SHIMANTO TOWN

地元牛肉を豪快に焼く



畜産が盛んな四万十町窪川は、お祭りにも肉料理がたくさん。中でも窪川牛の塊最大90kgを遠赤外線でじっくり焼き上げる回転焼きは一番人気! 味つけは塩コショウのみで、肉のうまみが味わえる。

¥ 1パック500円
11月6日(日)10:00~ 米こめフェスタに出店

● 販売者：恒石知則

ウナギ、 山菜

アユ、エビ、

仁淀川町
NIYODOGAWA TOWN

川の幸が
てんこもり

アユシーズン到来! 仁淀ブルーが美しい川の町の自慢は、アユの塩焼きに、アユの出汁がしみこんだ鮎めし。アユやウナギの田舎ずしも珍しい。商工会青年部が提供するテナガエビの素揚げや、イタダリの炒め物、お茶のスイーツも登場する。

¥ 清流のおきゃく大人3000円 小学生1000円
7月31日(日) 鮎愛ふれあい祭り

● 販売者：仁淀川町池川観光地域づくり協議会

え〜やん 焼きそば

芸西村
GEISEI VILLAGE

おいしかったら、
え〜やん!



芸西村の商工業の若手グループの焼きそばは、地元の食材にこだわるのではなく、味で勝負! ソースは数種類をブレンドし、高知ならではのピンク色のかまぼこ「すまき」の刻みが絶妙なおいしさを醸し出す。

¥ 1パック300円
7月30日(土)
芸西村納涼祭に出店

● 販売者：え〜やん芸西

メチカ、サバ、アジ……定置網で大量に水揚げされる室戸では、新鮮な魚をすりつぶして揚げたすり身が家庭料理の定番。グリーンピースやコーンなど季節の野菜を入れ、タマネギでやさしい甘みを出す。

¥ 5個入り300円
7月17日(日)9:00~
第2回むろと青空マルシェに出店

● 販売者：キッチンRichiママ

室戸市
MUROTO CITY



漁師町のお母さんの味

メキシカンなおじゃこ



安芸市
AKI CITY

JACOS ジャコス

¥ 1個500円
10月16日(日) ゆず収穫祭
10月のじゃこサミットに出店

● 販売者：安芸青年会議所

安芸市の漁獲高のほとんどを占めるシラスと、県内生産量1位のナスをはじめ、ピーマンやトマトなどの園芸野菜も使ったのが、メキシコの代表料理タコスじゃこバージョン! スパシーなサルサソースがじゃこに絡んで、ブラーボ!

キッチンRichiママの すりみ天



キッチンRichiママの すりみ天

高知移住物語

移るんです

解き放たれた 絵金

土佐には古くから流されてきた人々がいた。
他国からでなく自国にしながら流された人もいた。
時は幕末。風俗・文化の面にも「このままでいいのか」
という風潮が蔓延しだしていた。
そんな時、1人の絵師が野に放たれた。

わしは死後、絵金と呼ばれたらしい。
はりまや橋近くで生まれたわしの
本当の名前は、金蔵。
初めから野心があったわけではなく、
絵が得意だっただけ。
一芸に秀でるがは、いいぜよ。
売りこまなくても勝手に見出してくれる。
最初は、土佐藩・狩野派を継いだ
御用絵師・池添美雅さん
(楊斎・池添美光へ入り婿)だった。
16歳で入門して3年後の1829年には、
身分は最低の自分が藩主息女の
駕籠かき役とはいえ江戸へ行けたんだ。
藩主ぜよ、藩主。江戸ぜよ、江戸。



狩野派を学ぶ

金蔵は江戸で、庶民あがりのハングリイ精神が似ていたこともあり土佐藩邸御抱絵師・前村洞和にかわいがられ、狩野派を学び、その技術を身に付けた。19歳で土佐に戻ると、金蔵は土佐藩家老・桐間家の御用絵師に大抜擢。絶えていた藩医・林家を相続し、頭を丸め、士族、



『奥州安達原』三段目 安部貞任（部分）

けた狩野派だったが、中でも格式が高い「奥狩野」4家は医師や僧侶の職格を得ることで將軍との接見などが可能となっていた。江戸で狩野派の絵だけでなく仕組みも体感した金蔵は、まさにツボを押さえていたのだろう。

赤岡の自由な空気に囲まれて

下野した金蔵は各地を放浪しようだが、しばらくして声がかかった。「蔵が空いちゅう。うちに来て、存分に絵を描きよったらどうよ」。声をかけたのは、おばの嫁ぎ先、赤岡で廻船問屋を営む商人だった。

金蔵が描く絵は町のうわさとなった。夏祭りを前にしたある日のこと、また声がかかる。「今度お宮で奉納芝居をするが、盛大にしたいので絵を描いてくれんろうか」。須留田八幡宮の拝殿にはろくろ式廻り舞台があり、そこで行われる歌舞伎芝居は氏子たちの楽しみであった。この一声が絵金誕生のきっかけになるとは、本人も



横田恵さん（絵金蔵 副蔵長）

私が絵金と出会ったのは大学の授業。楽しみにしていた絵金祭りを見に行く授業が中止になったため、自分で絵金を調べ始めたのがきっかけです。絵金の絵の魅力だけでなく、一緒にこの文化を作り上げていった幕末土佐の庶民たちのパワーにもひきこまれ、大学院に進学して研究を続けました。絵金の人物像は滞在した地によって異なっています。赤岡町では「酒蔵の一室をアトリエにして大酒をまわしながら描いていた」、須崎市では「真面目で仕事中には一滴も飲まなかった」といった具合に。波乱万丈の生涯とともに、こういった謎めいた人物像も絵金の魅力の一つです。

身分となり、「林洞意美高」と名のることになった。
順風満帆、腕を磨き、地位を上げ、恩師・池添楊斎が亡くなると狩野派のトップの地位に着いた1844年のこと。金蔵は土佐藩御用絵師解任、高知城下所払、つまり追放の憂き目に遭う。なぜ――？

落款を入れたのは誰？

贋作事件に巻き込まれたのだ。「ひとつ、絵を描いてくれんかよ」。訪ねて来たのは、よく知る古物商だったという。描いた絵は左右一対の掛軸「蘆雁図」。なんとその絵が、当時その所持が名家の一つのステータスであった狩野探幽の落款が押されて売りに出された。もちろん、すぐバレた。描いた者の落款を入れるのがルールなので、金蔵が自ら入れたとは考えにくい。では、持ち去られてもして入れられたのか？ だとしたら「盗られまし」と訴えるだろう。落款を入れた者が仕掛人!? 謎だらけだが、金蔵はすべてを知っていたとも思えてくる。そうだとしたらリスクが大きい。実は、金蔵は同じタイトルの「蘆雁図」を「林洞意」の落款を入れて残している。これは何かのメッセージではないだろうか？ とにかく、絶頂期にあった金蔵は33歳ですべてを失った。



林洞意 「蘆雁図」六曲一隻 個人蔵 ※狩野探幽「蘆雁図」の模写ではない

医師にこだわったわけ

城下追放と同時に林姓も剥奪された金蔵がすぐれたこと、それは新しく医師姓を得ることだった。幸いにも、町医師で空いていた弘瀬家を継ぐことができたが、狩野派への強い執着を、その心中に垣間見ることができた。武士社会400年間にわたり画家集団として君臨し続、

周囲もまだ知る由もなかった。



赤岡・須留田八幡宮拝殿

金蔵は軽く誘に乗った。この時に描いた絵は残っていない。だが恐らく、歌舞伎のストーリーを連想させる、後に絵金が残した芝居絵に近いものではなかっただろうか。この絵は評判となり、競うように注文が舞い込み、金蔵は描きまくった。それは二曲一隻の芝居絵屏風で、屏風として立てることができた。こうして、狩野派にとり屏風絵はお城や寺社などで荘厳さを彩るものであったが、絵金の屏風絵は商家の軒先の地面に置くものになった。

一人の絵師として

赤岡は交通の要衝だったこともあり、製塩業や廻船業、酒や味噌醤油、鍛冶、綿織物など大きな商圏を形成していて、まちは活気に満ちていた。こうした経済力と活力を背景に、例え禁止令のさ中でも「奉納」と称して地域の行事をやめることなく庶民は楽しんだ。また、庶民が喝采を送る芝居絵を描く絵金にとっても、彼らに喜ばれていることを間近で実感できることは決して城の中では感じられない喜びであったに違いない。赤岡のまちで、絵金は画家として自立できたと言えることができる。

金蔵の生まれた時の姓は木下、その後、林、弘瀬と2度変わる。そして、人生を弘瀬姓で終えた。だが、その墓の表には「友竹斎」とあるだけで、弘瀬も林もない。身分や名譽へのこだわりは消えたのだろうか。死後のことなので本人の意思がどれほど働いたかは疑問だが、地位より個を優先する思いがわずかであっても妻や長男に伝わっていたと想像するのは勇み足だろうか。

今も旧盆の宵になると赤岡のまちは、邪気が来ぬよう軒先に絵金が残した屏風を立て、ローソクで照らし、家の中では先祖の供養をする、当時と変わらぬ風景となる。

「ぶしからの贈り物」

ご応募の際にはアンケートにお答えください。

プレゼントの応募は、1人1回とさせていただきます。ご了承ください。

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

応募締切
2016年8月末



1 春野町産 うなぎの蒲焼き 1名様

春野町はうなぎの産地。
仁淀川の水で育った身の
引き締まった自慢のうな
ぎを食べてみて！



2 いの町産 秋月梨 1名様

いの町で栽培される秋月梨は
香り良く、甘くて柔らかくみ
ずみずしい。秋の味をどうぞ！



3 絵金の町 赤岡の地酒セット 1名様

絵金の名のついた特別純米酒と
日本一早い新酒のおり酒（どち
らも 720ml）をセットで！



4 アルテックコーヒーチケット 3名様

2016年10月末閉店のアルテック。
8枚綴りのコーヒーチケットに、
ステッカーもおまけします。



5 紫陽花柄のとさたび 3名様

期間限定の紫陽花のストレッチ足袋
（サイズは 22～24cm）。どの柄が当たるかは、
届いてからのお楽しみ！



応募はWEBサイト <http://tosabushi.com>
TOPページ「ぶしからの贈り物」から

ぞうり

草履の足に 花が咲く

愛用者が語る
高知メイド
とさ印 13

「とさたび」の
ストレッチ足袋

愛用者 新川 一也さん（六條八幡宮 宮司）

私がお仕える神社の周りには
1400株の紫陽花あじさいが植えられて
いて、年中、地元の愛好会の方た
ちと手入れをしています。普段は
人の数より猫が多いくらい静かな
神社ですが、6月の紫陽花シーズ
ンはたくさんの方が訪れます。
7年前まで事務職でしたので、
革靴にソックスで仕事をしていまし
た。警察官を早期退職して神職に
なった父に薦められ、転職してか
らは、草履に白足袋になりました。
まだまだ見習いの身であるとともに、
40代は地域の中でも若手です
から、何事も率先して動かないと
いけません。このとさたびは、草
履でも靴でもしゅつと履けて動き
やすいし、肌触りもいい。いろんな
模様があつて、その日の気分を選
ぶのが楽しいんです。



花柄やレースなど数えきれない
くらい種類のあるとさたび。
室戸市の足袋工場で一足一足
縫い上げている。

紫陽花柄のとさたびは六條八幡宮（高知市春野）でしか買えない季節限定品（600～700円）。
他の柄のとさたびは、てんこす（高知市）、満天の星（高知市）、川村雑貨店（須崎市）などで販売しています。